

CLUSTERPRO[®] X **統合WebManager**

管理者ガイド

2012.6.30
第6版

CLUSTER **PRO**

改版履歴

版数	改版日付	内 容
1	2009/06/15	新規作成
2	2009/09/30	下記内部バージョンに対応 Windows版: 10.11 Linux版: 2.1.2-1
3	2010/10/01	下記内部バージョンに対応 Windows版: 11.00 Linux版: 3.0.0 -1
4	2011/10/11	下記内部バージョンに対応 Windows版: 11.10 Linux版: 3.1.0 -1
5	2012/3/31	下記内部バージョンに対応 Windows版: 11.13 Linux版: 3.1.3 -1
6	2012/6/30	下記内部バージョンに対応 Windows版: 11.14 Linux版: 3.1.4 -1

免責事項

本書の内容は、予告なしに変更されることがあります。

日本電気株式会社は、本書の技術的もしくは編集上の間違い、欠落について、一切責任をおいません。

また、お客様が期待される効果を得るために、本書に従った導入、使用および使用効果につきましては、お客様の責任とさせていただきます。

本書に記載されている内容の著作権は、日本電気株式会社に帰属します。本書の内容の一部または全部を日本電気株式会社の許諾なしに複製、改変、および翻訳することは禁止されています。

商標情報

CLUSTERPRO® X は日本電気株式会社の登録商標です。

Intel、Pentium、Xeonは、Intel Corporationの登録商標または商標です。

Microsoft、Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

Oracle、JavaおよびすべてのJava関連の商標およびロゴは Oracleやその関連会社の 米国およびその他の国における商標または登録商標です。

WebOTX は日本電気株式会社の登録商標です。

Androidは、Google, Inc.の商標または登録商標です。

本書に記載されたその他の製品名および標語は、各社の商標または登録商標です。

目次

はじめに.....	vii
対象読者と目的.....	vii
本書の構成.....	vii
CLUSTERPRO マニュアル体系.....	viii
本書の表記規則.....	ix
最新情報の入手先.....	x
第 1 章 統合WebManagerの概要.....	11
統合WebManager とは.....	12
統合WebManagerの動作環境.....	13
動作確認済OS、ブラウザ.....	13
Java実行環境.....	13
必要メモリ容量/ディスク容量.....	13
対応するCLUSTERPROのバージョン.....	14
統合WebManagerのセットアップ.....	15
CD-ROMからのインストール.....	15
ダウンロードによるインストール.....	16
統合WebManagerのアンインストール.....	16
Javaアプレット版 統合WebManagerの起動.....	17
第 2 章 統合WebManager の機能.....	19
統合WebManagerのメイン画面.....	20
メニューバー.....	21
ツールバー.....	21
ツリービュー.....	22
リストビュー.....	23
統合WebManagerへクラスタを登録するには.....	25
ツリービューで各オブジェクトの状態を確認するには.....	28
統合WebManagerの情報を最新に更新するには.....	29
フィルタを適用するには.....	30
フィルタを追加するには.....	33
クラスタを検索するには.....	34
検索結果リスト画面.....	37
カスタムタブ機能.....	38
カスタムタブの作成.....	38
カスタムフォルダの作成.....	39
クラスタのグルーピング.....	40
統合WebManagerからWebManagerを起動するには.....	42
統合WebManagerからクラスタを削除するには.....	43
設定情報の保存と読み込み.....	44
設定情報の保存.....	44
設定情報の読み込み.....	44
オプション設定.....	45
検索結果ビューアの位置.....	46
設定.....	46
ブラウザを選択.....	47
ログ収集機能.....	48
ログファイルの保存.....	48
第 3 章 補足事項.....	49

注意事項.....	50
出力メッセージ.....	51

はじめに

対象読者と目的

『CLUSTERPRO® X 統合 WebManager 管理者ガイド』は、CLUSTERPRO を使用したクラスタシステムを CLUSTERPRO 統合 WebManager で管理するシステム管理者、および統合 WebManager の導入を行うシステム エンジニアを対象読者としています。本書では、CLUSTERPRO® X 統合 WebManager (以下、統合 WebManager と略称) を使用したクラスタシステム導入時に必須の事項について、実際の手順に則して詳細を説明していきます。

本書の構成

- 第 1 章 「統合WebManagerの概要」: 統合WebManager の製品概要およびセットアップ方法について説明します。
- 第 2 章 「統合WebManager の機能」: 統合WebManager の各機能について説明します。
- 第 3 章 「補足事項」: 統合WebManager の補足事項について記述します。

CLUSTERPRO マニュアル体系

CLUSTERPRO のマニュアルは、以下の 5 つに分類されます。各ガイドのタイトルと役割を以下に示します。

『CLUSTERPRO X スタートアップガイド』 (Getting Started Guide)

CLUSTERPRO を使用するユーザを対象読者とし、製品概要、動作環境、アップデート情報、既知の問題などについて記載します。

『CLUSTERPRO X インストール & 設定ガイド』 (Install and Configuration Guide)

CLUSTERPRO を使用したクラスタ システムの導入を行うシステム エンジニアと、クラスタシステム導入後の保守・運用を行うシステム管理者を対象読者とし、CLUSTERPRO を使用したクラスタ システム導入から運用開始前までに必須の事項について説明します。実際にクラスタ システムを導入する際の順番に則して、CLUSTERPRO を使用したクラスタ システムの設計方法、CLUSTERPRO のインストールと設定手順、設定後の確認、運用開始前の評価方法について説明します。

『CLUSTERPRO X リファレンス ガイド』 (Reference Guide)

管理者、およびCLUSTERPRO を使用したクラスタ システムの導入を行うシステム エンジニアを対象とし、CLUSTERPRO の運用手順、各モジュールの機能説明、メンテナンス関連情報およびトラブルシューティング情報等を記載します。『インストール & 設定ガイド』を補完する役割を持ちます。

『CLUSTERPRO X 統合WebManager 管理者ガイド』 (Integrated WebManager Administrator's Guide)

CLUSTERPRO を使用したクラスタシステムを CLUSTERPRO 統合WebManager で管理するシステム管理者、および統合WebManager の導入を行うシステム エンジニアを対象読者とし、統合WebManager を使用したクラスタ システム導入時に必須の事項について、実際の手順に則して詳細を説明します。

CLUSTERPRO X モバイルWebManager 管理者ガイド』 (Mobile WebManager Administrator's Guide)

CLUSTERPRO を使用したクラスタシステムを CLUSTERPRO モバイルWebManager で管理するシステム管理者、およびモバイルWebManager の導入を行うシステム エンジニアを対象読者とし、モバイルWebManager を使用したクラスタ システム導入時に必須の事項について、実際の手順に則して詳細を説明します。

本書の表記規則

本書では、「注」および「重要」を以下のように表記します。

注：は、重要ではあるがデータ損失やシステムおよび機器の損傷には関連しない情報を表します。

重要：は、データ損失やシステムおよび機器の損傷を回避するために必要な情報を表します。

関連情報：は、参照先の情報の場所を表します。

また、本書では以下の表記法を使用します。

表記	使用方法	例
[] 角カッコ	コマンド名の前後 画面に表示される語（ダイアログ ボックス、メニューなど）の前後	[スタート] をクリックします。 [プロパティ] ダイアログ ボックス
コマンドライン中の [] 角カッコ	カッコ内の値の指定が省略可能であることを示します。	clpstat -s[-h host_name]
モノスペースフォント (courier)	パス名、コマンド ライン、システムからの出力（メッセージ、プロンプトなど）、ディレクトリ、ファイル名、関数、パラメータ	c:¥Program files¥CLUSTERPRO
モノスペースフォント 太字 (courier)	ユーザが実際にコマンドプロンプトから入力する値を示します。	以下を入力します。 clpcl -s -a
モノスペースフォント 斜体 (courier)	ユーザが有効な値に置き換えて入力する項目	clpstat -s [-h host_name]

最新情報の入手先

最新の製品情報については、以下のWebサイトを参照してください。

<http://www.nec.co.jp/clusterpro/>

第 1 章 統合 WebManager の概要

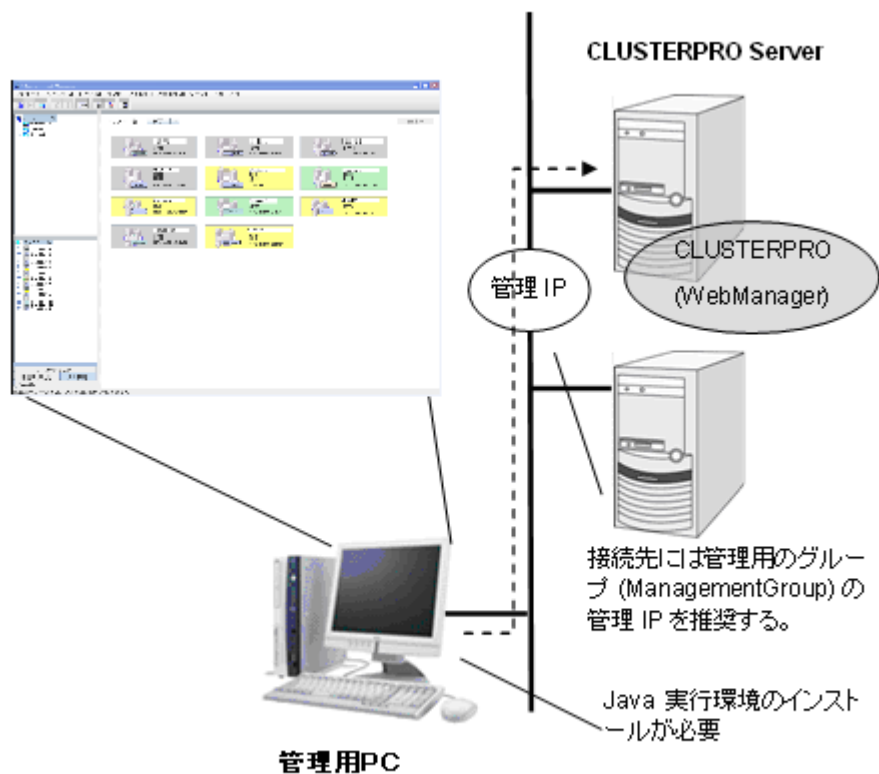
本章では、統合 WebManager の概要を記述します。

本章で説明する項目は以下のとおりです。

• 統合WebManager とは	12
• 統合WebManagerの動作環境	13
• 統合WebManagerのセットアップ	15
• Javaアプレット版 統合WebManagerの起動	17

統合 WebManager とは

統合 WebManager とは、ネットワークに分散するクラスタシステムを一元管理し、クラスタの状態監視などを行うための機能です。以下の図に統合 WebManager の概要を示します。



統合WebManagerには、Webブラウザ上で実行されるJavaアプレット版と、管理用PCにインストールしてJava Runtime Environment (JRE) で実行するJavaアプリケーション版があります。

統合 WebManager の動作環境

統合 WebManager を動作させるために必要な環境について記載します。

動作確認済OS、ブラウザ

最新情報は CLUSTERPRO のホームページで公開されている最新ドキュメントを参照してください。現在の対応状況は下記の通りです。

OS	ブラウザ	言語
Microsoft Windows® XP SP3	IE6 SP2	日本語/英語/中国語
Microsoft Windows Vista®	IE7	日本語/英語/中国語
Microsoft Windows® 7 (IA32)	IE8	日本語/英語/中国語
Microsoft Windows Server 2003 SP2	IE6 SP1	日本語/英語/中国語
Microsoft Windows Server 2003 R2	IE6 SP1	日本語/英語/中国語
Microsoft Windows Server 2008	IE7	日本語/英語/中国語
Microsoft Windows Server 2008 R2	IE8	日本語/英語/中国語

注: x86_64 のマシン上で統合 WebManager を動作させるには 32bit 用の Java Runtime を使用する必要があります。

Java実行環境

統合 WebManager を使用する場合には、Java 実行環境が必要です。

Java(TM) Runtime Environment
Version 6.0 Update 21 (1.6.0_21) 以降

Java(TM) Runtime Environment
Version 7.0 Update 2 (1.7.0_2) 以降

必要メモリ容量/ディスク容量

必要メモリ容量 : 35MB 以上

必要ディスク容量 : 8.7MB 以上(Java 実行環境に必要な容量を除く)

対応するCLUSTERPROのバージョン

統合 WebManager のバージョンと CLUSTERPRO バージョンは上記の対応表の組み合わせで使用してください。それ以外の組み合わせで使用すると正常に動作しない可能性があります。

Windows

統合WebManagerバージョン	CLUSTERPRO X Server 内部バージョン
1.0.0-1 以降	9.08 以降
2.0.0-1 以降	10.03 以降
3.0.0-1 以降	11.00 以降

Linux

統合WebManagerバージョン	CLUSTERPRO X Server 内部バージョン
1.1.0-1 以降	1.1.5-1 以降
2.0.0-1 以降	2.0.3-1 以降
3.0.0-1 以降	3.0.0-1 以降

Solaris

統合WebManagerバージョン	CLUSTERPRO X Server 内部バージョン
2.1.0-1 以降	2.1.0-1 以降
3.0.0-1 以降	3.0.0-1 以降

HP-UX

統合WebManagerバージョン	CLUSTERPRO X HA/ClusterMaster
2.1.0-1 以降	R2.3 ~ R3.1
3.0.0-1 以降	

注：HP-UX 環境で統合 WebManager をご利用になる場合、CLUSTERPRO X 統合 WebManager クライアント 1.0 オプションが必要です。

統合 WebManager のセットアップ

Java アプリケーション版 統合 WebManager のセットアップは、CLUSTERPRO X CD からインストールする方法と、CLUSTERPRO X 以降をセットアップ済みのサーバからダウンロードする方法があります。

Java アプレット版 統合 WebManager は、Web ブラウザから CLUSTERPRO X をセットアップ済みのサーバに接続して使用しますので、統合 WebManager のセットアップは不要です。

CD-ROMからのインストール

以下の手順に従って、インストール CD-ROM から統合 WebManager をセットアップしてください。

1. CLUSTERPRO X CD の CD-ROM 媒体を CD-ROM ドライブに入れます。
Linux/Solaris 環境の場合は CD-ROM を mount します。
2. CD-ROM 内の clusterlist.zip を展開してください。
 - ◆ Windows の場合
エクスプローラで CD-ROM 内の %common%<バージョン番号>%jp%manager フォルダを開き、clusterlist.zip を選択して右クリックします。
表示される右クリックメニューより、[全て展開]をクリックします。[展開ウィザード]ダイアログボックスが表示されますので、ローカルディスク上の解凍先フォルダを指定して clusterlist.zip を展開します。
 - ◆ Linux / Solaris の場合
CD-ROM内の/common/<バージョン番号>/jp/manager/clusterlist.zip をローカルディスク上にコピーし、gzip コマンドを実行して展開します。

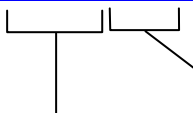
```
$ gzip -d clusterlist.zip
```
3. clusterlist.zip を展開したフォルダ/ディレクトリに移動してください。
4. 起動スクリプトで統合 WebManager を起動してください。
 - ◆ Windows の場合
run.bat を選択し、実行してください。
 - ◆ Linux / Solaris の場合
run.sh を選択し、実行してください。

```
$ ./run.sh
```

ダウンロードによるインストール

1. Webブラウザで下記 URL を指定して、CLUSTERPRO X が動作しているサーバから clusterlist.zip をダウンロードしてください。

<http://10.0.0.3:29003/clusterlist.zip>



インストール時に指定したWebManager のポート番号を指定します(既定値29003)。

クラスタの管理IPまたは、CLUSTERPRO Serverをインストールしたサーバの実IPアドレスを指定します。

2. ダウンロードした zip ファイルを展開してください。
 - ◆ Windows の場合
clusterlist.zip を選択し、右クリックします。表示される右クリックメニューより、[全て展開]をクリックします。[展開ウィザード]ダイアログボックスが表示されますので、指示に従いclusterlist.zip を展開します。
 - ◆ Linux / Solaris の場合
gzip コマンドを実行し、clusterlist.zip を展開します。

```
$ gzip -d clusterlist.zip
```
3. clusterlist.zip を展開したフォルダ/ディレクトリに移動してください。
4. 起動スクリプトで統合 WebManager を起動してください。
 - ◆ Windows の場合
事前にjava.exeへのパスを設定し、run.bat を選択し、実行してください。
 - ◆ Linux / Solaris の場合
run.sh を選択し、実行してください。

```
$ ./run.sh
```

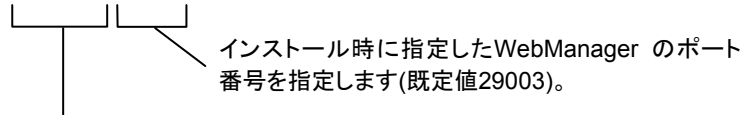
統合WebManagerのアンインストール

インストール時に clusterlist.zip を展開したディレクトリを削除してください。

Java アプレット版 統合 WebManager の起動

Java アプレット版 統合 WebManager は、Web ブラウザから下記の URL を指定して、CLUSTERPRO X の CLUSTERPRO Server をセットアップ済みのサーバに接続して起動します。

`http://10.0.0.3:29003/clusterlist.htm`



クラスタの管理IPまたは、CLUSTERPRO Serverをインストールしたサーバの実IPアドレスを指定します。

なお、Java アプリケーション版と Java アプレット版の統合 WebManager を同時に使用することはできません。

第 2 章 統合 WebManager の機能

本章では、統合 WebManager の機能について説明します。

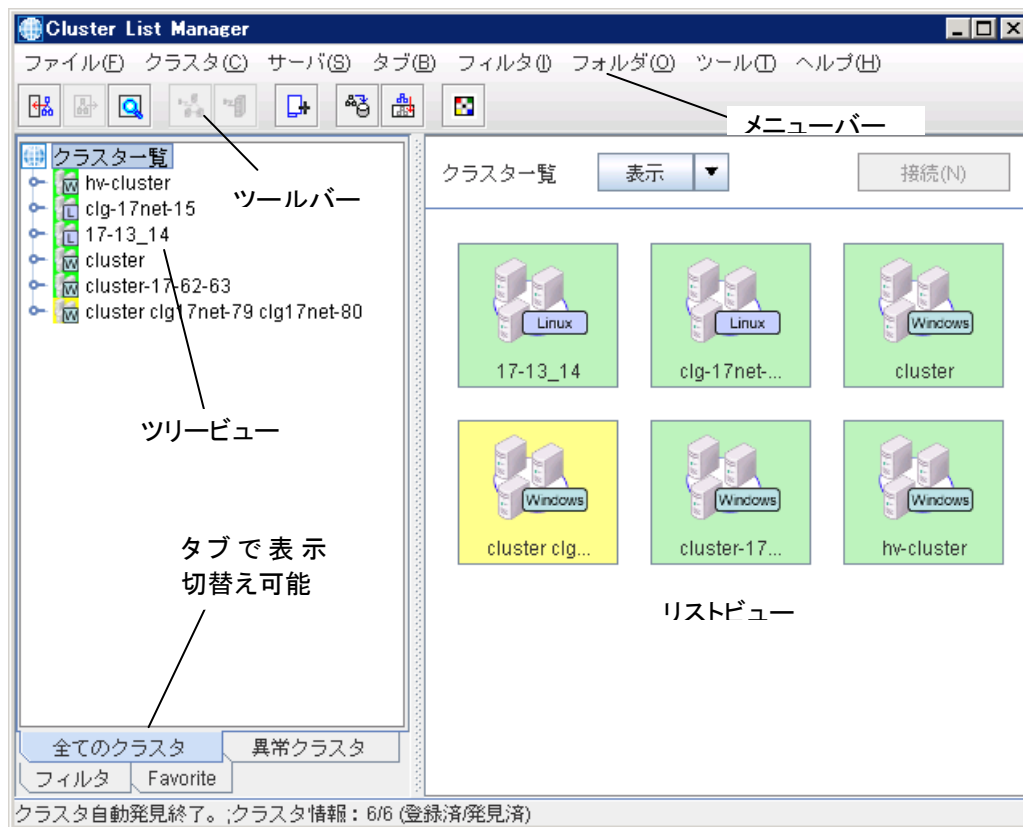
注: この章では、日本語環境での表示をもとに説明します。表示される言語は、管理端末の OS のロケールに依存します。

本章で説明する項目は以下のとおりです。

• 統合WebManagerのメイン画面	20
• 統合WebManagerへクラスタを登録するには	25
• ツリービューで各オブジェクトの状態を確認するには	28
• 統合WebManagerの情報を最新に更新するには	29
• フィルタを適用するには	30
• クラスタを検索するには	34
• カスタムタブ機能	38
• 統合WebManagerからWebManagerを起動するには	42
• 統合WebManagerからクラスタを削除するには	43
• 設定情報の保存と読み込み	44
• オプション設定	45
• ログ収集機能	48

統合 WebManager のメイン画面

統合 WebManager の画面について説明します。



メニューバー

各種機能呼び出すことができます。

ファイル(F) クラスタ(C) サーバ(S) タブ(B) フィルター(I) フォルダ(O) ツール(T) ヘルプ(H)

メニュー名	機能概要
[ファイル]	クラスタの登録、検索
[クラスタ]	クラスタの登録解除、WebManagerの起動(管理IP接続)
[サーバ]	WebManagerの起動(実IP接続)
[タブ]	カスタムタブの作成
[フィルタ]	フィルタの適用
[フォルダ]	カスタムフォルダの作成
[ツール]	オプション設定
[ヘルプ]	バージョン情報

ツールバー

各種機能呼び出すことができます。



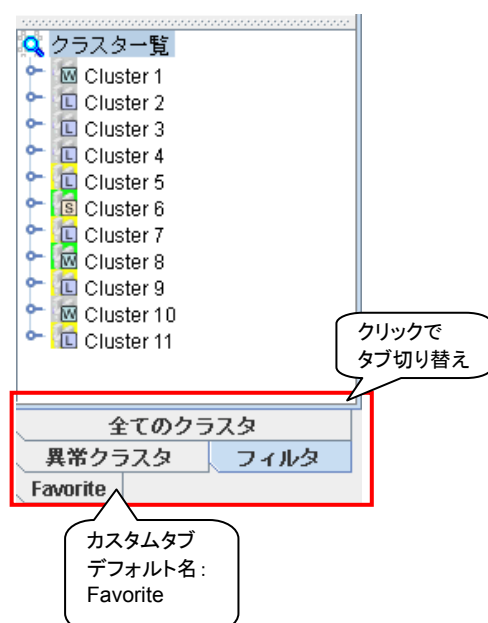
アイコン名		機能概要
[登録]		クラスタの登録
[登録解除]		クラスタの登録解除
[検索]		クラスタの検索
[クラスタに接続]		WebManager の起動(管理IP接続)
[サーバに接続]		WebManager の起動(実IP接続)
[タブの新規作成]		カスタムタブの作成
[保存]		現在の設定情報を保存
[最新の情報に更新]		最新の情報に更新
[オプション]		オプション設定

ツリービュー

クラスタ、サーバの状態が確認できます。

下部のタブをクリックすることで表示を切り替えることが可能です。

タブ名	機能概要
[全てのクラスタ]	登録したクラスタを全て一覧表示します。
[異常クラスタ]	異常クラスタ(クラスタ内にダウンしているサーバがあるか、状態を取得できないクラスタ)のみ一覧表示します。
[フィルタ]	フィルタを適用して自動分類したクラスタを表示します。 詳細は『フィルタを適用するには』を参照してください。
[カスタムタブ]	階層構造で分類整理したクラスタを表示します。 詳細は『カスタムタブ機能』を参照してください。

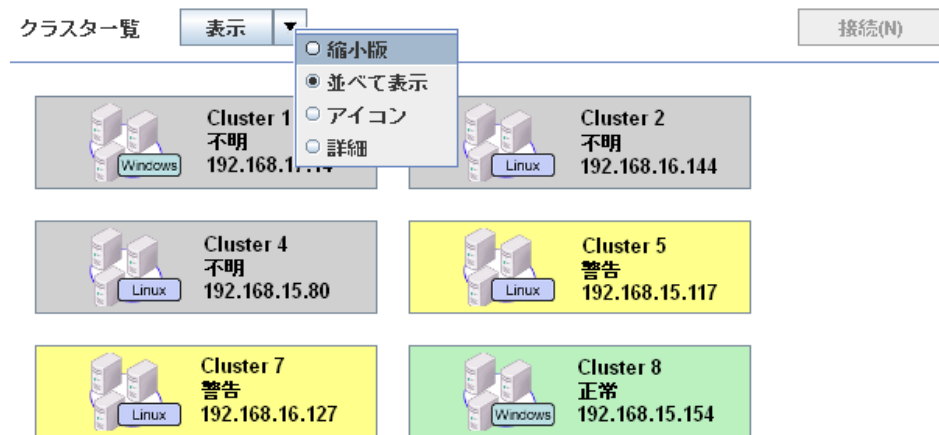


リストビュー

ツリービューで選択したクラスター、サーバについての情報が表示されます。

ツリービューでツリーのディレクトリを選択した場合に表示する画面：

ツリービューの[全てのクラスター]タブ - [クラスター一覧]等のクラスターを持っているディレクトリを選択した場合に表示される画面です。



ボタンメニュー

画面上部に配置されているボタンの説明です。

[表示]メニューリスト

検索結果のクラスター一覧の表示方法の変更が可能

選択可能表示:[縮小版]、[並べて表示]、[アイコン]、[詳細]

デフォルト:[縮小版]

[接続]ボタン

[クラスター一覧] よりクラスターを選択し WebManager を起動することが可能

右クリックメニュー

[クラスター一覧]よりクラスターを選択し、右クリックした場合に表示されるメニューの説明です。

[接続]

[クラスター一覧] よりクラスターを選択し WebManager を起動することが可能

[登録解除]

[クラスター一覧]よりクラスターを選択し統合 WebManager から削除することが可能

ツリービューでクラスタを選択した場合に表示する画面：

ツリービューから特定のクラスタを選択、またはリストビューに表示されるクラスタをダブルクリックした場合に表示される画面です。

[クラスタ:[選択したクラスタ名]]画面には選択したクラスタについての詳細な情報が表示されます。

[サーバー一覧]画面には選択したクラスタに属するサーバー一覧が表示されます。

クラスタ : cluster

プロパティ	設定値
クラスタ名	cluster
コメント	
製品	CLUSTERPRO X 3.1 for Windows
内部バージョン	11.10
プラットフォーム	Windows Server 2003, Enterprise Edition SP1
管理IPアドレス	10.0.0.1
ポート	29003
ステータス	正常

接続(N)

選択したクラスタに接続

サーバー一覧

接続(N)

選択したサーバに接続

server1 server2

ツリービューでサーバを選択した場合に表示する画面：

ツリービューでサーバを選択、またはリストビューに表示されるサーバをダブルクリックした場合に表示される画面です。

サーバ : server1

プロパティ	設定値
サーバ名	server1
製品	CLUSTERPRO X 3.1 for Windows
内部バージョン	11.10
プラットフォーム	Windows Server 2003, Enterprise Edition SP1
IPアドレス	
ポート番号	29003
ステータス	起動済

接続(N)

選択したサーバに接続

統合 WebManager ヘクラスタを登録するには

統合 WebManager でクラスタの管理を行う場合、管理するクラスタを統合 WebManager へ登録する必要があります。

この節では統合 WebManager ヘクラスタを登録する方法を説明します。

注: 統合 WebManager ではクラスタ名を識別子としてクラスタを管理するため、同名のクラスタを複数登録することはできません。同名のクラスタが既に登録済みの場合は、新規登録するクラスタのクラスタ名を事前に変更しておく必要があります。

◆ ツールバーより実行する場合

統合 WebManager ヘクラスタを登録するには、統合 WebManager 画面上部のツールバーの [登録]アイコンをクリックすると[クラスタ登録]ダイアログボックスが表示されます。

◆ メニューバーより実行する場合

統合 WebManager ヘクラスタを登録するには、統合 WebManager 画面上部のメニューバーの [ファイル]をクリックするとメニューリストが表示されます。

メニューリストの[登録]をクリックすると[クラスタ登録]ダイアログボックスが表示されます。

クラスタ登録

☒ 手動設定

IPアドレス: ポート:

☐ 同じサブネット

検索条件

IPアドレス:

サブネットマスク:

ポート範囲: ~

☐ 自動発見

検索条件

IPアドレス範囲:

開始:

終了:

ポート範囲: ~

説明:

適当なIPアドレスとポート番号を指定してください。
指定したIPアドレスとポート番号が不正な場合、クラスタを発見することができません。

OK キャンセル

手動設定

クラスタの管理 IP または、クラスタサーバの実 IP アドレス、および WebManager のポート番号を直接入力し、統合 WebManager へクラスタを登録します。

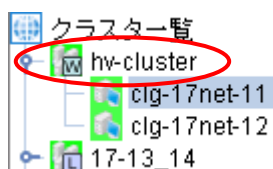
[IP アドレス]

クラスタの管理 IP または、クラスタサーバの実 IP アドレスを入力します。

[ポート]

WebManager のポート番号(既定値 29003)を入力します。

[OK]をクリックします。正常に登録された場合、ツリービューにクラスタアイコンが追加されます。登録に失敗した場合は、クラスタアイコンは追加されません。[IP アドレス]、[ポート]が正しく指定されているか、クラスタが起動しているか確認してください。



同じサブネット

指定したアドレスのサブネット上から自動発見し、統合 WebManager へクラスタを登録します。

[IP アドレス]

検索対象とするサブネットの IP アドレスを入力します。例えば、ネットワークアドレスが 10.58.68.0/24 の場合は 10.58.68.0 を、3ffe:1234:5678::/48 の場合は 3ffe:1234:5678::を入力します。

[サブネットマスク]

検索対象のサブネットマスクを bit 数で入力します。例えば、ネットワークアドレスが 10.58.68.0/24 の場合は 24 を、3ffe:1234:5678::/48 の場合は 48 を入力します。

[ポート]

検索対象とするポート番号の範囲を入力します。

自動発見

クラスタをネットワーク上から自動発見して、統合 WebManager ヘクラスタを登録します。

[IP アドレス範囲]

検索対象とする IP アドレスの範囲を入力します。[開始] [終了]へ IP アドレスを入力します。

[ポート範囲]

検索対象とするポート番号の範囲を入力します。

[同じサブネット]または[自動発見]を選択して[OK]をクリックすると[クラスタ自動発見]ダイアログボックスが表示されます。



統合 WebManager に登録するクラスタにチェックを入れ、[登録]ボタンをクリックすると、ツリービューにクラスタアイコンが追加されます。

[登録済也表示]

既に登録済みのクラスタも含め、自動発見したクラスタを全て表示します。

[すべて選択]

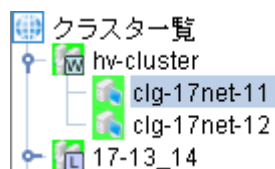
表示している全てのクラスタにチェックを入れます。







[フィルタ]

クリックすると[フィルタ登録]画面が表示され、登録したいクラスタの条件を入力し[OK]ボタンをクリックすると入力した条件に適合したクラスタにチェックが入った状態になります。

ツリービューで各オブジェクトの状態を確認するには

統合 WebManager の画面上で、クラスタを構成する各オブジェクトの状態を視覚的に確認できます。各オブジェクトの状態を以下に示します。



No.	アイコン	ステータス	説明
(1)	クラスタ全体 	—	状態はありません。
(2)	クラスタ 	[正常]	全てのサーバが起動しています
		[警告] 	クラスタ内にダウンしているサーバが存在します
		[不明] 	情報が取得できません
(3)	サーバ 	[起動済]	サーバは正常に動作しています
		[警告] 	通信できないサーバが存在します
		[保留(ネットワークパーティション未解決)]	ディスクネットワークパーティション解決リソースが異常な状態のため、ネットワークパーティション解決ができない状態です
		[保留(ダウン後再起動)] 	サーバがクラスタ停止、クラスタシャットダウン以外でシャットダウンされ、サーバが起動した状態です
		[停止済]/[不明] 	サーバはダウンしています/情報が取得できません

統合 WebManager の情報を最新に更新するには

統合 WebManager に表示される情報を最新に更新する方法について説明します。

注： 統合 WebManager に表示される情報は自動的に更新されますが、対象クラスタのバージョンが X2.0 以前の場合、設定された更新間隔で更新されるため、必ずしも常に最新の状態を示しているわけではありません。最新の内容を表示したい場合は、操作を行った後、次の手順に従ってください。

統合 WebManager の自動更新間隔は、[ツール] - [オプション] - [配置情報] - [Polling 間隔] で調整可能です。

接続先と通信不可である場合、及び、接続先で CLUSTERPRO の本体が動作していない場合などは、一部オブジェクトが灰色で表示されることがあります。

なお、対象クラスタのバージョンが X2.1 以降の場合、クラスタサーバからの状態更新通知を受けて情報が更新されますが、クラスタが全サーバ停止状態から起動した際には、クラスタサーバからの通知が再開されるまでに最大 90 秒の時間を要します。その間は情報が自動更新されませんが、下記の操作により最新の情報に更新することが可能です。

- ◆ ツールバーより実行する場合

ツールバーの[最新の情報に更新]アイコンをクリックしてください。

- ◆ メニューバーより実行する場合

メニューバーの[ツール]をクリックします。表示されるメニューリストより[最新の情報に更新]をクリックしてください。

フィルタを適用するには

フィルタとはクラスター一覧から条件指定することで目的のクラスターだけを表示させる機能です。例えば IP アドレスの条件を指定することで特定のネットワークに所属するクラスターのみを表示したりすることが可能です。

この節ではフィルタの適用方法について説明します。

◆ メニューバーより実行する場合

ツリービューの[フィルタ]タブをクリックし、表示を切り替えます。ツリービューの[フィルター一覧]を選択し、メニューバーの[フィルタ]をクリックします。表示されるメニューリストより[新規作成]を選択すると[フィルタのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

◆ 右クリックメニューより実行する場合

ツリービューの[フィルタ]タブをクリックし、表示を切り替えます。[フィルター一覧]を右クリックし、表示される右クリックメニューから[新規作成]を選択すると、[フィルタのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

次にフィルタ条件の入力を行います。

フィルタのプロパティ

フィルタ名:

クラスター名:

製品:

コメント:

IPアドレス範囲

開始:

終了:

プラットフォーム

☐ Windows ☐ Linux ☐ Solaris ☐ HP-UX

ステータス

☐ 正常 ☐ 警告 ☐ 異常または停止済

OK キャンセル

フィルタ条件の入力

[フィルタ名]

フィルタの名称を入力します。

[クラスタ名]

クラスタ名に含まれる文字列で絞り込む場合に検索文字列を入力します。

[製品]

クラスタの製品名に含まれる文字列で絞り込む場合に検索文字列を入力します。

[コメント]

クラスタのコメントに含まれる文字列で絞り込む場合に検索文字列を入力します。

注: 上記 3 項目 ([クラスタ名]、[製品]、[コメント]) は、ツリービューにてクラスタ選択時にリストビューに表示される各プロパティの設定値に対して文字列検索を行い、指定された文字列を含むクラスタを抽出します。検索文字列は半角/大文字小文字/スペースなどを含め、全て一致している必要があります。例えば、CLUSTERPRO X 3.0 for Windows を使用したクラスタの場合、[製品] が "CLUSTERPRO X 3.0 for Windows" となるので、[製品] の検索文字列として "3.0 for Windows" を指定すると抽出されますが、"3.0forWin" (スペースが無い) や "windows" ("W" が小文字) では抽出されません。

より詳しい条件を設定したい場合は Java の正規表現を用いることが可能です。正規表現の詳細については『Java2 プラットフォーム API 仕様』ドキュメントの『パッケージ java.util.regex』を参照してください。

[IP アドレス範囲]

絞り込みたいクラスタの IP アドレスの範囲を入力します。

[プラットフォーム]

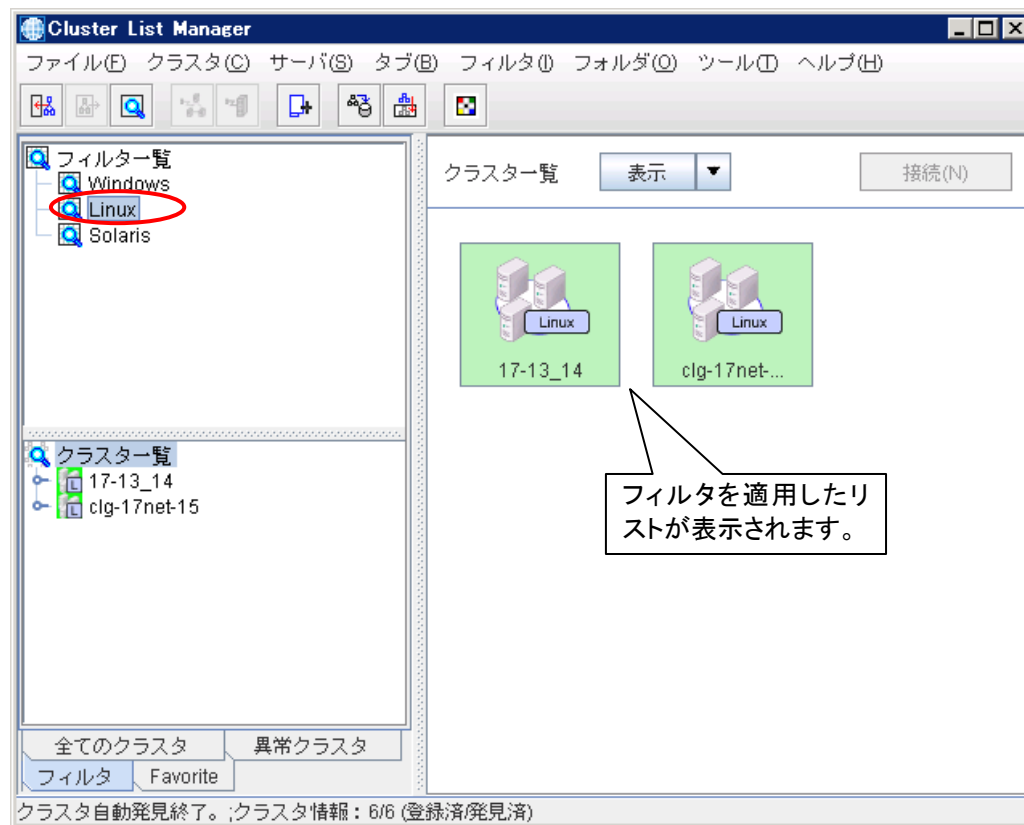
絞り込みたいクラスタのプラットフォームを指定します。

[ステータス]

絞り込みたいクラスタのステータスを指定します。

フィルタ条件を入力後に[OK]をクリックすると、ツリービューの[フィルタ]タブに作成したフィルタが追加されます。

追加したフィルタを選択するとフィルタを適用したリストが表示されます。



フィルタを追加するには

フィルタリング結果に対してさらに条件を追加して絞り込みたい場合、異なるフィルタを重ねて適用することが可能です。

フィルタを追加する方法を説明します。

◆ メニューバーより実行する場合

統合 WebManager のツリービューから条件を追加したいフィルタを選択します。

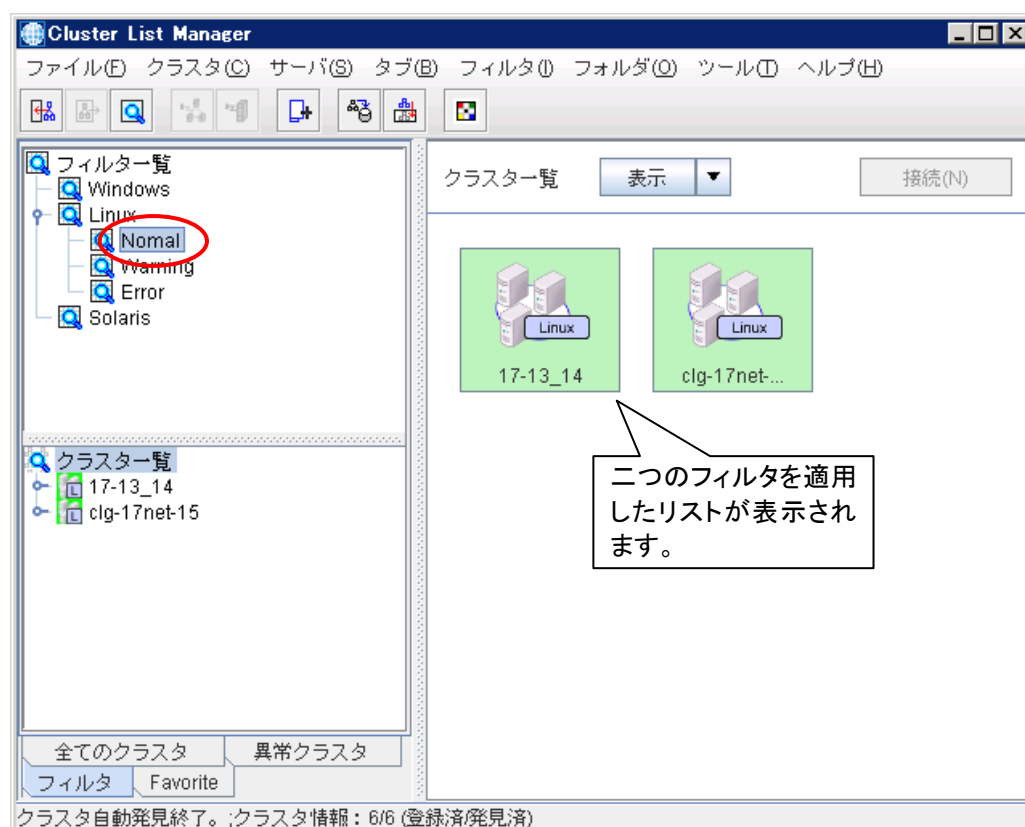
メニューバーの[フィルタ]をクリックします。表示されるメニューリストより[新規作成]を選択すると[フィルタのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

追加したいフィルタ条件を指定し、[OK]をクリックします。

◆ 右クリックメニューより実行する場合

統合 WebManager のツリービューから条件を追加したいフィルタを選択し、右クリックします。表示される右クリックメニューから[新規作成]を選択すると、[フィルタのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

追加したいフィルタ条件を指定し、[OK]をクリックします。



クラスタを検索するには

統合 WebManager は登録したクラスタ一覧から目的のクラスタを検索することが可能です。
この節ではクラスタを検索する方法を説明します。

メニューバーの[ファイル]をクリックします。表示されるメニューリストより[検索]を選択すると[検索条件設定]ダイアログボックスが表示されます。

検索条件設定

クラスタ名:

製品:

コメント:

IPアドレス範囲

開始:

終了:

プラットフォーム

☐ Windows ☐ Linux ☐ Solaris ☐ HP-UX

ステータス

☐ 正常 ☐ 警告 ☐ 異常または停止済

検索範囲

☒ カレントタブ ☐ タブ

OK キャンセル

次に検索条件の入力を行います。

検索条件の入力

[クラスタ名]

検索したいクラスタの名称を入力します。

[製品]

検索したいクラスタの製品名を入力します。

※ ツリービューにてクラスタ選択時にリストビューに表示される[設定値]列、[製品]行に表示される内容で検索を行います。

例:『CLUSTERPRO X 2.1 for Windows』

[コメント]

コメント内容で検索します。検索したいキーワードを入力してください。

注:上記3項目は文字列検索が可能です。(検索文字列は半角/大文字小文字/スペースなどを含め、全て一致している必要があります。)

より詳しい条件を設定したい場合は Java の正規表現を用いることが可能です。正規表現の詳細については『Java2 プラットフォーム API 仕様』ドキュメントの『パッケージ java.util.regex』を参照してください。

[IP アドレス範囲]

検索したいクラスタの IP アドレスの範囲を入力します。

[プラットフォーム]

検索したいクラスタのプラットフォームを指定します。

[ステータス]

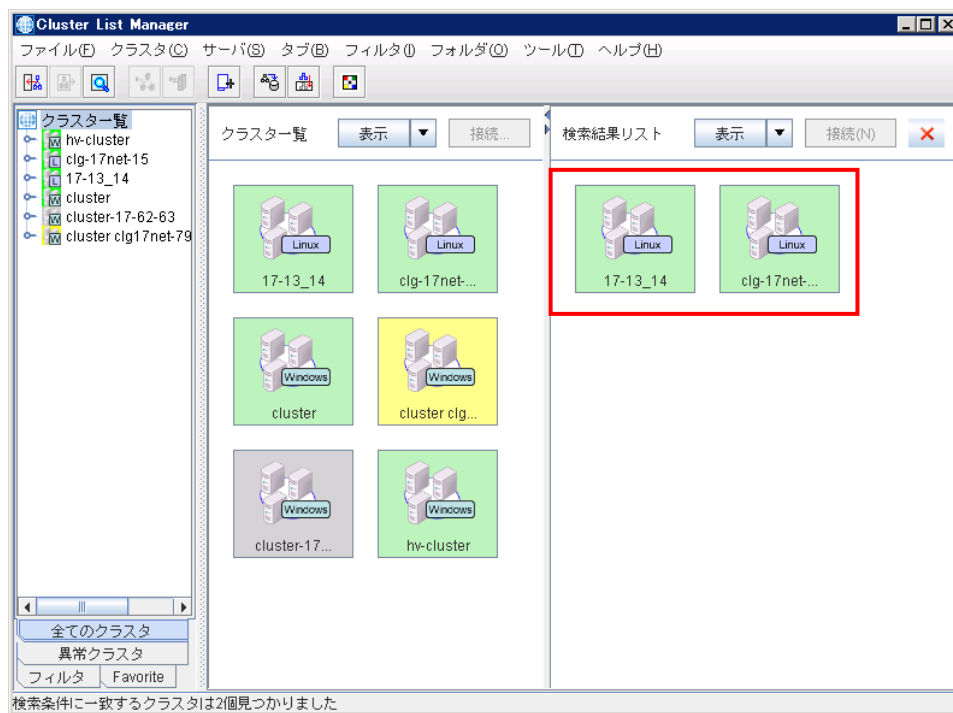
検索したいクラスタのステータスを指定します。

[検索範囲]

検索を行うタブを指定します。

- ◆ [カレントタブ] … 現在開いているタブより検索
- ◆ [タブ] … 検索を行うタブを指定

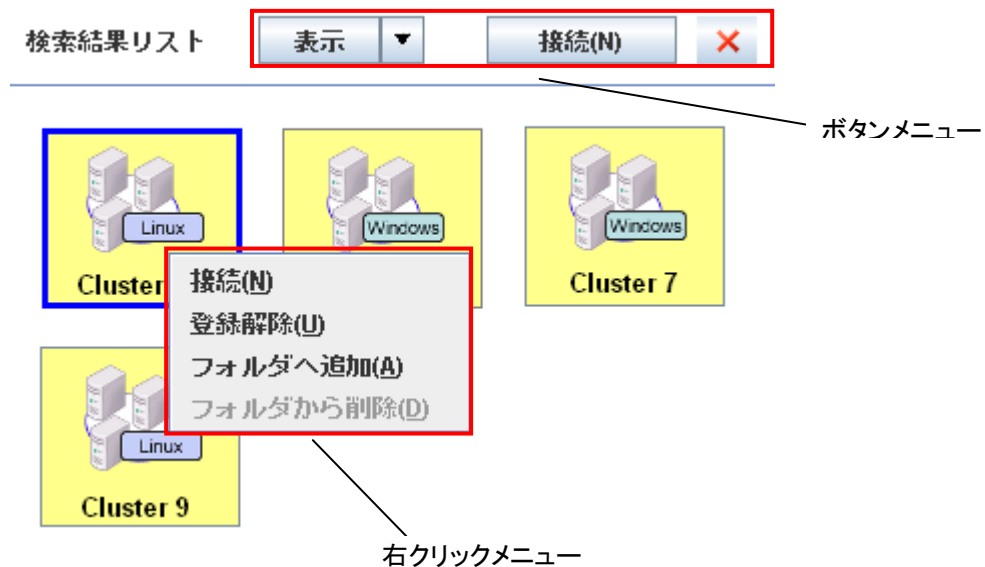
検索条件を指定後に[OK]をクリックすると、リストビューに[検索結果リスト]が表示されます。



検索結果リスト画面

検索結果が表示される[検索結果リスト]画面より、クラスタの登録解除や接続操作を行うことが可能です。

クラスタの検索結果が表示される[検索結果リスト]について説明します。



ボタンメニュー

[表示]メニューリスト

検索結果のクラスター一覧の表示方法の変更が可能

選択可能表示:[縮小版]、[並べて表示]、[アイコン]、[詳細]

デフォルト:[縮小版]

[接続]ボタン

[検索結果リスト] よりクラスタを選択し WebManager を起動することが可能

[X]ボタン

検索結果リスト画面を終了

右クリックメニュー

[接続]

[検索結果リスト] よりクラスタを選択し WebManager を起動することが可能

[登録解除]

[検索結果リスト]よりクラスタを選択し統合 WebManager から削除することが可能

[フォルダへ追加]

[検索結果リスト]よりクラスタを選択しカスタムフォルダに分類することが可能

カスタムタブ機能

統合 WebManager はクラスタのグルーピングが可能であるカスタムタブを作成することができます。カスタムタブでは自由にカスタムフォルダを作成することができ、選択したクラスタをカスタムフォルダにグルーピングすることが可能です。

この節ではカスタムタブの使用方法を説明します。

カスタムタブの作成

- ◆ ツールバーより実行する場合

ツールバーの[タブの新規作成]アイコンをクリックすると[確認]ダイアログボックスが表示されます。

- ◆ メニューバーより実行する場合

メニューバーの[タブ]をクリックします。表示されるメニューリストより[新規作成]を選択すると[確認]ダイアログボックスが表示されます。

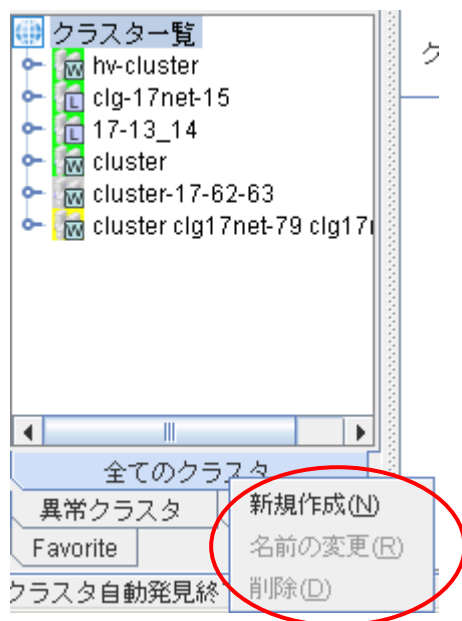
- ◆ 右クリックメニューより実行する場合

ツリービューの下部に存在するタブ部を右クリックします。表示される右クリックメニューより[新規作成]を選択すると[確認]ダイアログボックスが表示されます。

- ◆ [確認]ダイアログボックス表示以降の手順

[OK]をクリックすると[Favorite]カスタムタブが作成され、[検索条件設定]ダイアログボックスが表示されます。

カスタムタブの名称は[名前の変更]をクリックすることで変更することができます。



[検索条件設定]にグルーピングしたいクラスタの条件を入力し、検索を行います。

検索方法については『クラスタを検索するには』を参照してください。

カスタムフォルダの作成

クラスタのグルーピングを行うためのフォルダを作成します。

カスタムフォルダはカスタムタブ上でのみ作成可能です。ツリービューより作成したカスタムタブをクリックし、表示します。

◆ メニューバーより作成する場合

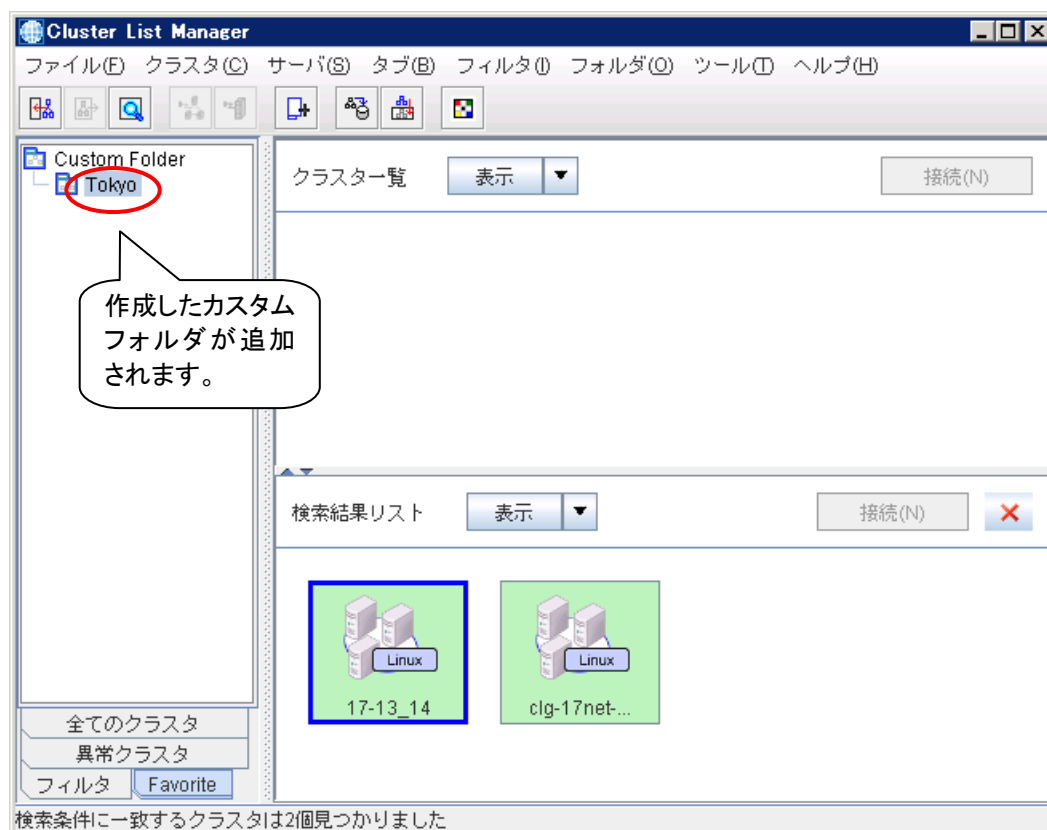
統合 WebManager のツリービューから作成したい階層のフォルダを選択します。メニューバーの[フォルダ]をクリックし、表示されるメニューリストから[新規作成]を選択します。

◆ 右クリックメニューより作成する場合

統合 WebManager のツリービューから作成したい階層のフォルダを選択し、右クリックします。表示される右クリックメニューから[新規作成]を選択します。

ツリービューにフォルダ(既定名称[新しいフォルダ])が追加されます。

カスタムフォルダの名称は[名前の変更]をクリックすることで変更することができます。



クラスタのグルーピング

作成したフォルダにクラスタをグルーピングします。

◆ ドラッグアンドドロップでグルーピングする場合

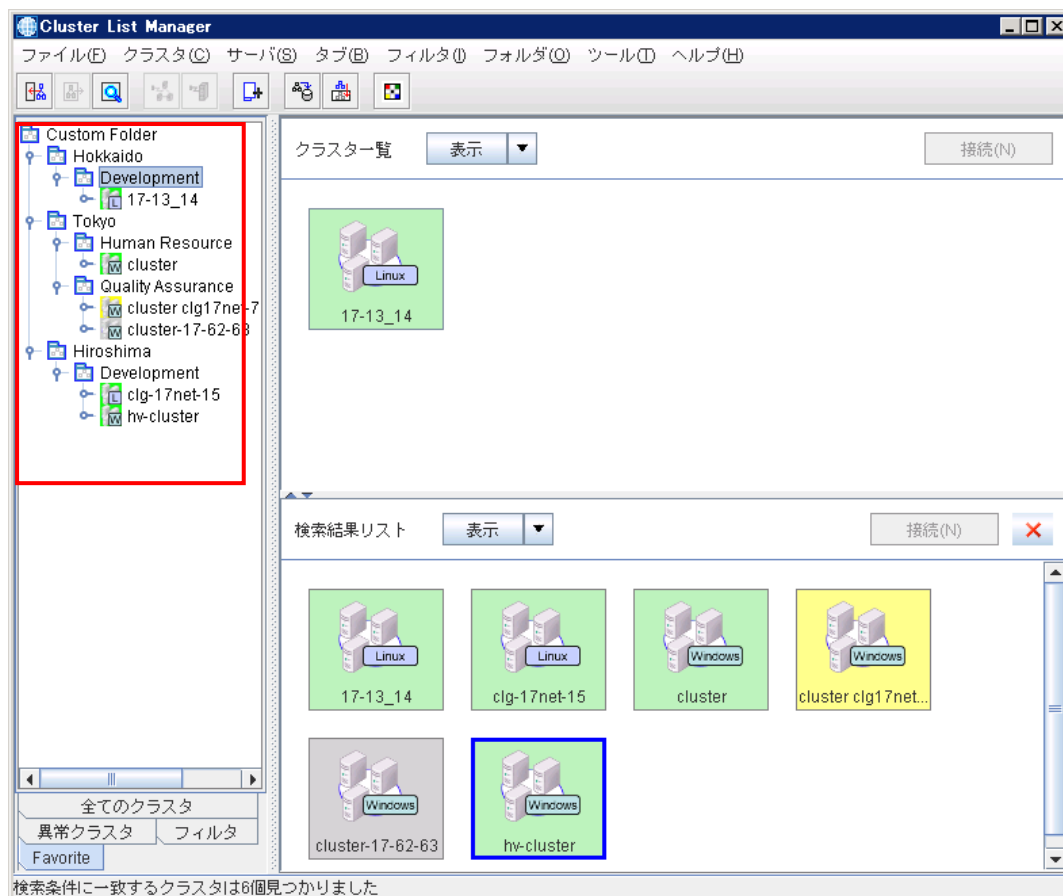
リストビューに表示される[検索結果リスト]よりグルーピングしたいクラスタを選択し、作成したフォルダへドラッグアンドドロップを行います。

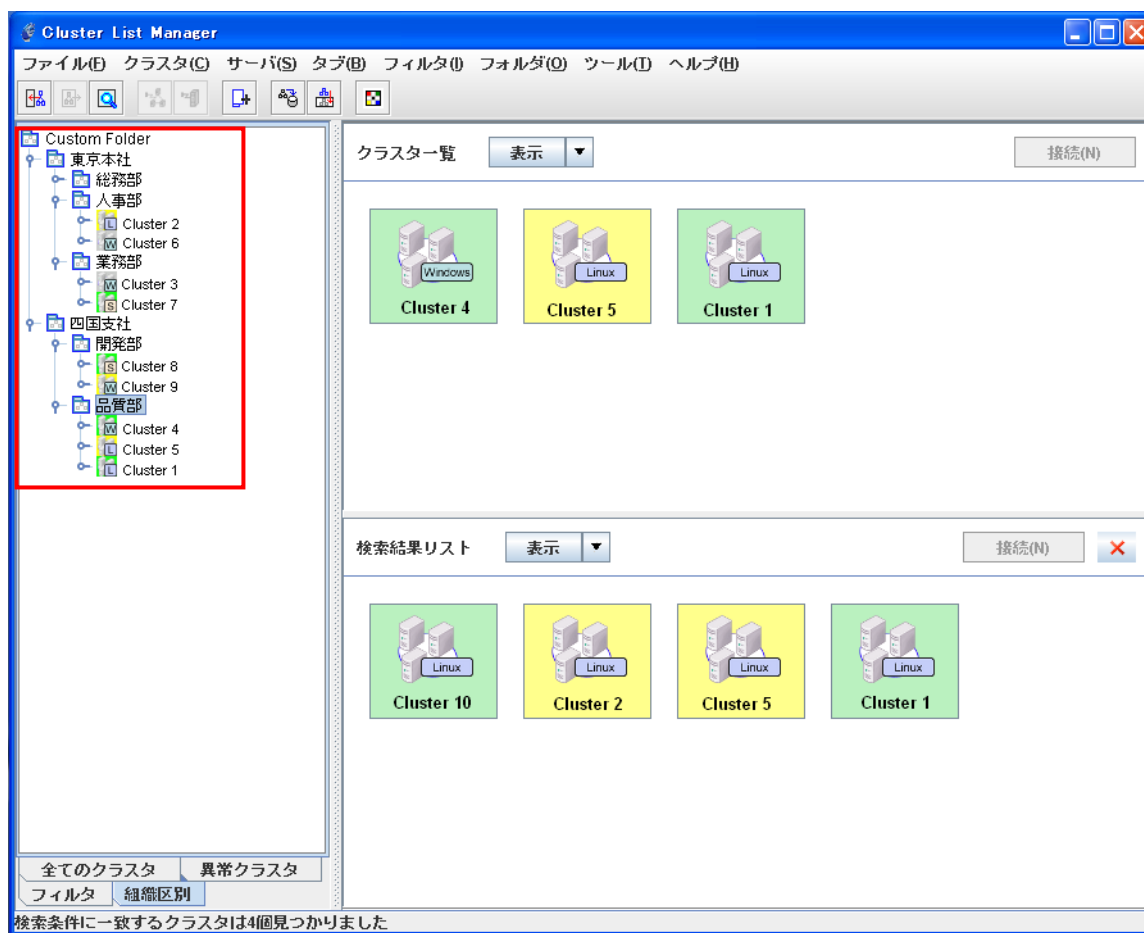
◆ 右クリックメニューよりグルーピングする場合

統合 WebManager のツリービューから作成したフォルダを選択します。([Ctrl] キー + クリックで複数のクラスタを選択可能です。)

リストビューに表示される[検索結果リスト]よりグルーピングしたいクラスタを選択し、右クリックします。表示される右クリックメニューより[フォルダへ追加]をクリックします。

作成したフォルダ配下へクラスタが追加されます。





統合 WebManager から WebManager を起動するには

統合 WebManager から WebManager を起動するには、以下の 2 つの方法があります。

管理 IP を使用して WebManager を起動

ツリービュー、リストビューの[クラスター一覧]、[検索結果リスト]より接続したいクラスタを選択します。クラスタの選択後、次の手順に従ってください。

- ◆ ツールバーより実行する場合
ツールバーの[クラスタに接続]アイコンをクリックします。
- ◆ メニューバーより実行する場合
メニューバーの[クラスタ]をクリックします。表示されるメニューリストから[接続]を選択します。
- ◆ 右クリックメニューより実行する場合
クラスタの選択後、右クリックします。右クリックメニューから、[接続]を選択します。
- ◆ リストビューの[接続]ボタンより実行する場合
リストビューの[クラスター一覧]右上に存在する[接続]ボタンをクリックします。

サーバの実 IP アドレスを使用して WebManager を起動

ツリービュー、リストビューの[サーバー一覧]より接続したいサーバを選択します。サーバの選択後、次の手順に従ってください。

- ◆ ツールバーより実行する場合
ツールバーの[サーバに接続]アイコンをクリックします。
- ◆ メニューバーより実行する場合
メニューバーの[サーバ]をクリックします。表示されるメニューリストから[接続]をクリックします。
- ◆ 右クリックメニューより実行する場合
サーバの選択後、右クリックします。右クリックメニューの[接続]をクリックします。
- ◆ リストビューの[接続]ボタンより実行する場合
リストビューの[サーバー一覧]右上に存在する[接続]ボタンをクリックします。

複数の IP アドレスを保持している場合、[IP アドレスを選択]ダイアログボックスが表示されます。接続先の IP アドレスを選択し、[OK]をクリックします。



統合 WebManager からクラスタを削除するには

この節では統合 WebManager より登録したクラスタを削除する方法を説明します。

ツリービュー、リストビューの[クラスター一覧]、[検索結果リスト]より削除したいクラスタを選択します。[クラスター一覧]、[検索結果リスト]から選択する場合、[Ctrl]キー + クリックまたは[詳細]表示の場合はドラッグで複数選択することが可能です。

削除するクラスタの選択後、次の手順に従ってください。

- ◆ ツールバーより実行する場合

クラスタの選択後、ツールバーの[登録解除]アイコンをクリックします。

- ◆ メニューバーより実行する場合

クラスタの選択後、メニューバーの[クラスタ]をクリックし、表示されるメニューリストから[登録解除]を選択します。

- ◆ 右クリックメニューより実行する場合

クラスタの選択後、右クリックします。右クリックメニューから、[登録解除]を選択します。

ツリービューに表示されている順に、クラスタは削除されます。

設定情報の保存と読み込み

統合 WebManager で使用する設定情報は以下になります。各設定情報について保存と読み込みを行うことが可能です。

この節では設定情報の保存と読み込み方法について説明します。

設定情報	保存ファイル
クラスタリスト	clusterlist/config/clsmgr_data.xml
ユーザ設定情報	clusterlist/config/clsmgr.cfg
配置情報	clusterlist/config/clsmgr.pol

設定情報の保存

設定情報は次のタイミングで自動保存が実行されます。

- ◆ 30分間隔で自動保存
- ◆ 終了時に自動保存

手動で保存する場合は次の手順に従ってください。

- ◆ ツールバーより実行する場合
ツールバーの[保存]アイコンをクリックします。
- ◆ メニューバーより実行する場合
メニューバーの[ファイル]をクリックし、表示されるメニューリストから[保存]を選択します。

設定情報の読み込み

以下のディレクトリに格納されている設定情報を起動時に自動で読み込みます。

clusterlist/config/*

重要: 他の環境から設定情報を移行する場合、各設定情報のバックアップを取得してから上書きしてください。

オプション設定

統合 WebManager のオプション設定では、ポート番号や使用する Web ブラウザ等を変更することが可能です。

この節ではオプション設定の変更方法を説明します。

◆ ツールバーより実行する場合

ツールバーの[オプション]アイコンをクリックすると[オプション設定]ダイアログが表示されます。

◆ メニューバーより実行する場合

メニューバーの[ツール]をクリックし、表示されるメニューリストから[オプション]を選択すると[オプション設定]ダイアログが表示されます。

[オプション設定]ダイアログ下部の[デフォルト]をクリックすることでデフォルト値に戻すことが可能です。

各設定値についての説明を次に記述します。

オプション設定

検索結果ビューア的位置

上

左 プロパティ 右

下

設定

Polling間隔: 90 秒

接続タイムアウト: 3 秒

UDPポート: 29010

ログレベル: 情報

ログサイズ: 4 MB

ブラウザを選択

☒ 自動発見したブラウザを選択

☐ ブラウザを指定する

デフォルト OK キャンセル

検索結果ビューアの位置

クラスタの検索結果を表示する位置を選択することが可能です。

デフォルト:[右]

設定

使用するポート番号等システムに関する設定を行うことが可能です。

◆ Polling間隔

クラスタ情報の自動更新間隔です。対象クラスタのバージョンが X2.0 以前の場合、および HA/ClusterMaster の場合は、この間隔でクラスタ情報を再取得し、表示を更新します。間隔を短く設定すると、クラスタの状態の変化が表示に反映されるまでの時間を短縮できますが、通信量が増加するため、自動更新の対象となるクラスタが多い場合はご注意ください。

設定範囲 : 1 ~ 300

デフォルト : 90 秒

◆ 接続タイムアウト

WebManager サーバとの接続タイムアウト時間です。

設定範囲 : 0 ~ 999999 (0 に設定した場合、接続するまで永久待ちになります。)

デフォルト : 3 秒

◆ UDPポート

WebManager サーバからの通知を受信する際に使用するポート番号です。

設定変更後、統合 WebManager の再起動を行うことで有効になります。

設定範囲 : 1 ~ 65535

デフォルト : 29010

注:統合 WebManager の再起動時に WebManager サーバへ変更したポート番号が通知されるため、WebManager サーバ側の設定は不要です。

◆ ログレベル

保存するログレベルを変更することが可能です。ログレベルは[エラー][警告][情報]の 3 種類の他に、[情報]より詳細な内部動作を記録する[トレース 1][トレース 2][トレース 3]があり、[トレース 3]が最も詳細なログを記録します。この設定で指定したレベルより詳細なログは記録されませんので、例えば既定値の[情報]の場合は[エラー][警告][情報]の 3 種類のログが記録されます。

デフォルト: [情報]

◆ ログサイズ

保存するログのサイズを MByte 単位で設定することが可能です。ログは clusterlist.zip を展開したフォルダ/ディレクトリの下の log フォルダに clsmgr.log.0 および clsmgr.log.1 というファイル名で保存され、一方のログファイルが設定されたサイズに達すると、もう一方のログファイルに保存先を切り替えます。このため、最大で設定値の 2 倍のディスク容量を必要とします。

ログレベルを上げて、より詳細なログを記録する場合、記録されるログの量が多くなるため、より大きいサイズを設定する必要があります。なお、0 を設定すると無制限にログを記録するため、ディスク容量を圧迫する可能性がありますので、通常は 1 以上の値を設定してください。

設定範囲 : 0 ~ 2047(0 に設定した場合、『サイズ制限なし』になります。)

デフォルト : 4MB

ブラウザを選択

Java アプリケーション版 統合 WebManager から WebManager を起動する際に使用する Web ブラウザを選択することが可能です。Java アプレット版の場合はアプレットを実行している Web ブラウザを使用するため、この設定項目はありません。

デフォルト:[自動発見したブラウザを選択]

- ◆ 自動発見したブラウザを選択

インストールされている Web ブラウザが自動的に選択されます。

- ◆ ブラウザを指定する

特定の Web ブラウザを使用したい場合に選択してください。

使用したい Web ブラウザの実行パスを指定することで設定されます。

ログ収集機能

バージョン 3.0.0 以降の統合 WebManager では、統合 WebManager のログを収集し、指定されたディレクトリに zip ファイルとして出力することが可能です。

この節ではログ収集機能の使用方法を説明します。

ログファイルの保存

- ◆ メニューバーより実行する場合

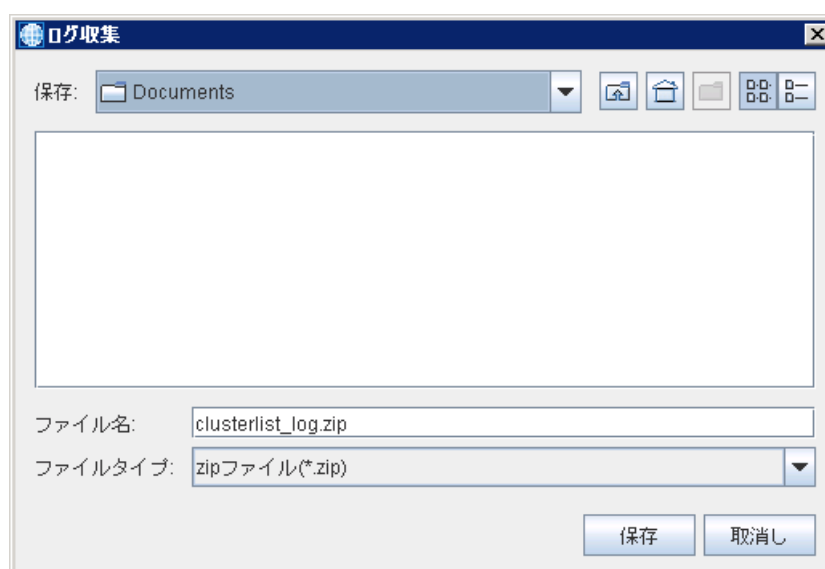
メニューバーの[ファイル]メニューをクリックします。表示されるメニューリストより[ログ収集]を選択すると、ファイル保存ダイアログが表示されます。

- ◆ ショートカットキーで実行する場合

ショートカットキーGを入力すると、ファイル保存ダイアログが表示されます。

- ◆ ファイル保存ダイアログ表示以降の手順

保存場所を選択して、OK ボタンをクリックすると、ログファイルを保存します。



第 3 章 補足事項

本章では、統合 WebManager の補足事項について説明します。

注: この章では、日本語環境での表示をもとに説明します。表示される言語は、管理端末の OS のロケールに依存します。

本章で説明する項目は以下のとおりです。

- 注意事項 50
- 出力メッセージ 51

注意事項

1000 セット以上のクラスタを登録している状態で、統合マネージャの動作が一時的にストールする現象が頻発する場合、Java実行環境のヒープサイズが不足している可能性があります。Javaコンソール¹に下記のエラーメッセージが出力される場合は、ヒープサイズが不足しています。

```
java.lang.OutOfMemoryError: Java heap space
```

この場合は、run.sh / run.bat をテキストエディタで開き、下記のように java / javaw コマンドに -Xmx オプションを追加してヒープサイズを拡張してください。

設定例:

[run.sh]

変更前: \$JAVA_CMD -jar \$JAR_FILE

変更後: \$JAVA_CMD -Xmx256M -jar \$JAR_FILE

[run.bat]

変更前: start javaw -jar %JAR_FILE%

変更後: start javaw -Xmx256M -jar %JAR_FILE%

¹ Windows環境の場合、Javaコンソールが表示されませんが、run.bat中の
"start javaw -jar %JAR_FILE%" を "start java -jar %JAR_FILE%" に書き換えることにより、
Javaコンソールを表示させることが可能です。

出力メッセージ

統合 WebManager 運用時に表示されるメッセージの一覧を以下に示します。

レベル	メッセージ	原因	対策
情報	クラスタ"[0]"を登録しました。	指定したクラスタをツリーに登録しました。	—
確認	"[0]"の登録を解除しますか？	選択したクラスタを管理画面から削除しますか？	—
確認	フォルダ"[0]"とフォルダ内のすべての内容を削除しますか？	選択したフォルダとフォルダ内のすべての内容を削除しますか？	—
確認	フォルダ"[1]"からクラスタ"[0]"を削除しますか？	選択したクラスタを所属フォルダから削除しますか？	—
確認	フィルタ"[0]"を削除しますか？	選択したフィルタを削除しますか？	—
確認	クラスタの検索結果画面からクラスタの drag と drop で"Favorite タブ"に追加することができます。クラスタ検索を行ないますか？	クラスタの検索結果画面からクラスタの drag と drop で"Favorite タブ"に追加することができます。クラスタ検索を行ないますか？	—
確認	タブ"[0]"を削除しますか？	選択したタブを削除しますか？	—
確認	全て選択されたクラスタの登録を解除しますか？	選択したクラスタの登録を全て解除しますか？	—
確認	指定された UDP ポートは既に使用されています、新たなポートを指定しますか？	指定した UDP ポートは既に他 AP に使用されています。	—
警告	保存したクラスタリストの読み込みに失敗しました。¥n ファイル "clsmgr_data.xml" が壊れたかどうか確認してください。	対象ファイルが壊れています。	対象ファイルが正常であるか確認してください。
警告	ファイル"clsmgr_data.xml"を書き込む権限がないので、クラスタリストの保存に失敗しました。	対象ファイルの書き込み権限がありません。	ファイル"clsmgr.cfg"のアクセス権限を確認してください。
警告	ユーザの設定情報の読み込みに失敗しました。¥n ファイル"clsmgr.cfg"が壊れたかどうか確認してください。	対象ファイルが壊れています。	対象ファイルが正常であるか確認してください。
警告	ファイル"clsmgr.cfg"を書き込む権限がないので、ユーザの設定情報の保存に失敗しました。	対象ファイルの書き込み権限がありません。	ファイル"clsmgr.cfg"のアクセス権限を確認してください。
警告	配置情報の読み込みに失敗しました。¥n ファイル"clsmgr.pol"が壊れたかどうか確認してください。	対象ファイルが存在していないか壊れています。	対象ファイルが正常であるか確認してください。
警告	UDP ポートが変更されました。変更は統合マネージャの再起動後に有効になります。	UDP ポート番号が変更されました。	変更した値は統合 WebManager の再起動後に有効になります。
エラー	統合マネージャ画面が既に動いています。	統合 WebManager は既に起動しています。	前回起動した統合 WebManager が終了しているかを確認してください。

レベル	メッセージ	原因	対策
エラー	指定されたクラスタ"[0]"は既に登録されています。	クラスター一覧ツリーに、同じ名前のクラスタがすでに存在します。	—
エラー	クラスタが見つかりませんでした。IP アドレスとポート番号が正しいか、クラスタが起動しているか、確認してください。	入力した IP アドレスとポート番号からは、クラスタが発見できません。	IP アドレスとポート番号が正しいかどうか確認してください。 発見したいクラスタが起動しているか、確認してください。
エラー	IP アドレスを指定してください。	IP アドレスが設定されていません。	エラーダイアログを閉じてから、検索クラスタの IP アドレスを設定してください。
エラー	ポート番号を指定してください。	ポート番号が設定されていません。	エラーダイアログを閉じてから、検索クラスタのポート番号を設定してください。
エラー	IP アドレスが不正です。	指定した IP アドレスが不正です。	エラーダイアログを閉じてから、正しい IP アドレスを設定してください。
エラー	IP アドレス範囲が不正です。	開始 IP アドレスが終了 IP アドレスより、大きく設定されています。	正しい IP アドレス範囲を設定してください。
エラー	ポート番号は 1～65535 の値を指定してください。	ポート番号の設定が範囲外になっています。	1～65535 を指定してください。
エラー	ポート範囲が不正です。	開始ポートが終了ポートより、大きく設定されています。	正しいポート範囲を設定してください。
エラー	開始 IP アドレスが不正です	指定した開始 IP アドレスが不正です。	エラーダイアログを閉じてから正しい IP アドレスを設定してください。
エラー	終了 IP アドレスが不正です	指定した終了 IP アドレスが不正です。	エラーダイアログを閉じてから正しい IP アドレスを設定してください。
エラー	開始アドレスと終了アドレスの IP バージョンが異なります。	指定した開始アドレスと終了アドレスの IP バージョンが異なります。	共通の IP バージョンのアドレスを指定してください。
エラー	"[0]"という名前は既に存在しています	指定した名前は既に使用されています。	使用していない名前を指定してください。
エラー	フィルタの名前を指定してください	フィルタ名が入力されていません。	作成するフィルタの名称を入力してください。
エラー	Polling 間隔は 1～300 の値を指定してください	Polling 間隔の設定値に範囲外の値が指定されています。	1～300 の値を指定してください。
エラー	UDP ポートは 1～65535 の値を指定してください	UDP ポート番号に範囲外の値が指定されています。	1～65535 の値を指定してください。
エラー	ログサイズは 0～2047 の値を指定してください	ログサイズに範囲外の値が指定されています。	0～2047 の値を指定してください。
エラー	指定されたファイルが存在していません	指定されたファイルが存在しません。	正しい Web ブラウザの実行パスを指定してください。

レベル	メッセージ	原因	対策
エラー	フォルダを指定されました	Web ブラウザのパスにフォルダが指定されています。	正しい Web ブラウザの実行パスを指定してください。
エラー	ブラウザの実行パスを指定してください	Web ブラウザの実行パスが指定されていません。	正しい Web ブラウザの実行パスを指定してください。
エラー	開始アドレスと終了アドレスの上位 64 ビットが異なっています。	開始アドレスと終了アドレスの上位 64 ビットを同一にする必要があります。	開始アドレスと終了アドレスの上位 64 ビットを同一にしてください。
エラー	ローカルサーバは IPv4 をサポートしていません。	ローカルサーバは IPv4 をサポートしていません。	IPv4 を有効にしてください。
エラー	ローカルサーバは IPv6 をサポートしていません。	ローカルサーバは IPv6 をサポートしていません。	IPv6 を有効にしてください。
エラー	サブネットマスクを指定してください	サブネットマスクが指定されていません。	サブネットマスクを指定してください。(bit 数)
エラー	サブネットマスク範囲が不正です	サブネットマスクの値が不正です。	1～128 の値を指定してください。
エラー	ネットマスク範囲が不正です。1～32 まで入力してください。	IPv4 の場合に、サブネットマスクは 1 から 32 まで以外の数値を入力しています。	IPv4 アドレスのサブネットマスクは 1～32 の値を指定してください。
エラー	ネットマスク範囲が不正です。1～128 まで入力してください。	IPv6 の場合に、サブネットマスクは 1 から 128 まで以外の数値を入力しています。	IPv6 アドレスのサブネットマスクは 1～128 の値を指定してください。
エラー	マルチキャストアドレスが入力されています。	マルチキャストアドレスが入力されています。	マルチキャストアドレスを入力しないでください。
エラー	タブの名前を指定してください	タブの名前が指定されていません。	タブの名前を入力してください。
エラー	移動先に同じ名前のフォルダが存在しています。	移動先に同じ名前のフォルダが存在します。	フォルダ名を使用されていない名称に変更し、再度移動処理を実行してください。
エラー	URL の取得に失敗しました。	内部エラーが発生しました。	接続サーバの Public-LAN IP、クラスタの管理 IP の設定値が正しいか確認してください。
エラー	URL {0} の接続に失敗しました	URL {0} の接続に失敗しました。	・URL が正しいか確認してください。 ・URL に対応する IP のサーバが起動しているか確認してください。
エラー	ブラウザの検索に失敗しました	ブラウザの自動検索時に、内部エラーが発生しました。	・再実行してください。 ・オプション設定にてブラウザの実行パスを指定してください。(詳細は『ブラウザを選択』参照)
エラー	ブラウザが発見できません。Web ブラウザをインストールしてください。	OS の環境変数設定のパスにブラウザの実行ファイルパスが含まれていないため、ブラウザを発見することができません。	・Web ブラウザがインストールされているか、パスに設定されているかを確認してください。 ・オプション設定にて実行パスを指定してください。(詳細は『ブラウザを選択』参照)
エラー	指定したブラウザが発見できません。オプション設定画面でブラウザのパスが正しいか確認してください。	指定された Web ブラウザの実行ファイルが存在しません。	オプション設定にて Web ブラウザの実行パスが正しいか確認してください。

レベル	メッセージ	原因	対策
エラー	下記の{0}個クラスタは管理 IP がありません: {1}	表示されたクラスタに管理 IP が設定されていません。	表示されたクラスタに管理 IP を設定してください。
エラー	サーバ“{0}”は Public-LAN の IP アドレスがありません	サーバ“{0}”の Public-LAN に IP アドレスが設定されていません。	サーバ“{0}”の Public-LAN に IP アドレスを設定してください。